

武教全書口訣

用間

十

蕪湖圖書館藏	
部門	七乙一
番號	六
冊數	二八

武教全書口訣

用商



商ハ計策人徳ノ者林ノ下ナリ
其ノ徳ノ者林ノ下ナリ
其ノ徳ノ者林ノ下ナリ
其ノ徳ノ者林ノ下ナリ
其ノ徳ノ者林ノ下ナリ
其ノ徳ノ者林ノ下ナリ
其ノ徳ノ者林ノ下ナリ
其ノ徳ノ者林ノ下ナリ
其ノ徳ノ者林ノ下ナリ
其ノ徳ノ者林ノ下ナリ





武教全書口訣

△用間

用間之法... 武教全書口訣... 用間之法... 武教全書口訣...

間之計策人恐人者杯ノ下ナリ其意ニト

ヨク款ノ七ニキテヨリ入テ虚実ヲ

ヨクカリ款ノ情ヲ伺ヒ或ヨク其親戚ヲ

トシテ也ヨクナリトスル也間謀ハ細作ハ

遊偵ハ或ハ行人ハノハ也是ヲ用ル

ナリ此篇云故用間ト云也ナリハ間

ノ用ル人ニアルナリ也



○五間之事

異国ノ兵奮出ル処間ニ五ツノ只アリ
ソレトクノ用ヒヤウアリ其五ツヲ云

一 因間ノ款国ノ郷人ニ因テ用之也

因ハ千十ムトヨム款ノ国中ノ郷民町
人百姓へ金銀布帛ノ類十トヲ子夕へ

都テ恩ヲ施シ此方ハ十ツテ其欲ニ千

十ニ或ハ羨心十キ処或ハ名間ノ心十

凡テ上言千十ミテ我用ニ立テ款ノ虚実ノ

情ヲシリ或ハ万度ヲ内通十ト十サシ

ムル也此ヲ因間ト云何レノ間モ千十

ムニアラカレハ变成ナルニ是ヲ第

一ニ出セリ

一 内間ノ款国ノ官人ニ因テ用ルヲ云十リ

款方ノ禄アルモノ士役人ノ中ニテ欲

心ノ深キモノ或ハ徳羨アレ用ヒラ

レナルカ或ハ故アリテ上ヲウラミル

力憤ラサシハサミテ居ル者ノ類ニ因

テツカヒ我カ用ニ立ル也内通ラサセ
裏切トトサセ君臣ノ間ヲ隔サセトト
スル也

一 反間 款国ノ間者ニ因テ用ルヲ云也

一 内 款ヨリキタス処ノ間ヲ却テ我間ニ用
ル也或ハ款ノ間ト知又ヤリニモテ十
シ此方ノ能トテ款ノ為ニ利ノ有如ク
ニミセテ夕ニ力ヘテアラ又トテ
イハセ或ハ款ノ間ニ賂ヲ厚クアタヘ

ヘテ其心ヲトリ瀕ク我用ニ立ル類其
方便色々アルトキ也日本ニ用テ来

一 死間 計策ノ為ニ死スルヲ云也毒心

忠美心ノ深キモノヲ偽リテ款ニクテ
ラセハカリトテサセ其トアラハル
ル氏ハ款ニコロサル類或辨士ヲ以
テ和談ヲ乞款ニ弓断ヲサシメ其使
ノ返ラサル内ニ責ル氏ハ款怒テ右ノ
使ヲ殺類ノト也此等ノ夕クテ云

一生間 敵国へ往來メ事ヲ窺テ歸ルヲ云

ナリ

此方ヨリツカハス間款ノ一ヲ委細ニ

見分シ生テカヘリテ我ニ告テ知スル

ヲ云也

○計策之事

計策ハ款ヲハカルヲ也序段ニ委シク

云ルカ如シ是中古ヨリ日本ニ用ヒ来

ル也前ノ五間ト名目ハ千カヘテ道

理ハ同シト也

一味方ヲ入ル事

是死間生間ノ道理ニ同シ知謀深久心

鉄石ノ如クメニ心ナク勇氣ニ燃飢寒

ヲモコラヘ耻ヲ忍ヒ弁舌ヨクカキ等

術ニ通シ鄙妄ニ多能ナル類ノ人柄ヲ

用ヒ偽テ罪科ニ行ヒ款方へ奉公ナク

サセ或ハ款ノ為ニ回リ忠ヲ致シタル

如クメ款中へツカハシ其情ヲハカリ

虚実弓矢ノ格地理十トイサイニシル
ヲ云也 莫アヲハル、片ハ款ニ殺サレ
アラハレサレハ生テ帰ル也故ニ死生
ノ間ニアタル

一 返忠ノ者ヲ作ル事

是ハ前ノ因内間ノ道理也 款ノ郷民或
ハ士役人ニ縁ヲ来メ高知恩賞ヲ与ヘ
厚ク賂ヒ其心ヲ取頌ケ味方ヘ引入テ
万変ヲ内通サセルヲ云也

軍歌ニ曰イカホトモ款ノ内輪ニ疑ノ虫

クルヤウニカラクリヲ也ヨイク夕ヒ
モ計叟ヲ入ヨ款陣ヘ成モ成ヌモウタカ
ヒハアリ
色々ト計策ヲ入テ款中ヘ疑ノイカホ
トモ出来ルヤウニ手段ヲナスヘヒト
也疑ヒアレハ不和メ自ラ破ルメノ
ナリサテ其計策タトヒ成就ハセスト
特モ疑ハ起ルモノ也

一 計策不叶ハ又別ノ縁ヲ以テ別ニモ反忠ノ者アリト可申遣変

款中へ計策ヲ入其ノ不成成ハ又別ノ縁手筋ヲ用テ諸將ノ中ナトへ何某モ兼テ此方へ内通テ変ナレハ其方ニモ我へカヘリ忠ヲナスヘシ尤アラハ国郡ヲ遣スヘシナト云ヤル也然ルモハ夕トへ其変叶ハストテモ疑生シ互軍心ヲ隔テ不和ニナルモナリ前

軍哥ノ心也

一 款之間ヲ遣フ事是ハ款ノ計策人來テ

我ヲ窺フヲシラサレニ子メ返テ返メ是ニ示スカ如也或ハ款ノ生取ヲ得テ偽リノ計ヲカレニ示シ密ニカレシメ或ハ厚ク賂ヒ録ヲ重クメ我カ間夕ラシナル是ヲ款ノ間ヲ遣フト云也是ハ乃前ノ返間ノ道理也

城責計策之变

城責計策之变

一、款ハ戦ヲ好カル工へ要害ニ引籠リ專
ラ堅ク守リ是ヲ力攻ニスル氏ハ人数
ヲ多ク損シテ手間ヲ取ユヘニ計策ヲ
用テ款ノ情ヲハカリ或ハ城中ヲ不和
ニ致シ或ハ味方へ降り或ハ討テ出ル
如クスル丁城責ノ所要也上兵ハ謀ヲ
計以下云リ其計策ノ変ヲ云也然レ其
一、弓鉄炮矢玉薬計策之変
是皆軍中第一ノ要器也此類ヲ城中無

然レ其ノ勇士良臣ノ中へ送りマシテ計ヲ示
ス也然ル氏ハ此者返忠ヲ示シタル工へ
共款ヨリ送り来リタルト諸人疑ヒテ起
シ不和ニ成ルモ也送りモノ右ノ具
限ラス城中不足ノ武器ト下遣ス
一、好シ食物音信音物ヲ以テ款ノ和談其口
ヲリヲ引見ル事
款ノ諸將或ハ頼トスル如ク家老ト

ノ中へ其好ムルノ食物ノ類ヒテ送リ
ヲトツレテ和談ヲ致シカケ敵ノ口ヲ
リ云方ヲ引ミルヘシト也夕トヘ其計
ハ成ス凡其情ハシル、モノ也

軍哥ニ曰幾度モ敵ノ陣ヘハ馬鷹ヤ酒者
ヲ送り計策ヲセヨ
兵法曰凡真師十萬出征千里百姓之費公
家之奉日費千金内外騷動急於道路不得
操事者七十万家相守數年以爭一日之勝

而愛爵祿百金不知敵之情者不仁之至也

是總テ間ヲ用ヒスノ叶ハヌトヲ云リ
凡真師十萬出征千里ト總テ十萬人軍
兵ヲ起シ權テ本國ヲ出テ千里モ隔夕
ル遠國ヘ征伐シニ働行也百姓之費公
家之奉ト民ヨリ出スル人軍役モヤイ
公美ノ入目也奉ハ奉養ト云テ軍兵ヲ
養フ扶持方等ヲ云日費千金ト右ノ通
下ハ百姓ノ費上ハ公美ノ物入合也テ

八日二八千金ノ入目カ、ル也内外騷
勤怠於道路不得操事者七十万家ト昔
八井田ノ法ニテ八家ヨリ一人兵ヲ出
シ残り七家ヨリ右ノ一人ノ仕立テヲ
十シ或ハ兵糧ヲハコフ也内国ニ残ル
者外軍ニ折立モノ何ヒモ騷動メヤム
ヒ六十ク軍器兵糧ヲ運ヒテ国ヨリ其
軍中迄ノ道ニクルシミテ事ヲトル
ヲ得ス国中ノ百姓我カフオトスル肝

要ノ農業ヲツトムルヲオラスヤメテ
居ルモノ十万人ノ軍兵ヲ以テスレハ七
十萬軒也相守数年以争一日之勝右ノ
十萬ノ勢ヲ打破ラニテ欲スルハカ
リ也對陣ハ数年ニテモ勝ヲ取ルハ只
一日之變也而愛爵祿百金不知款之情
者ト是間ヲ遣ハヌテ云間ニハ事ニ
ヨリテ官位知行或ハ金銀十トホウ
云與ルヲ取ル也愛ハ惜ム也間ヲ用ル

氏ハ款ノ情ハ早ク知ル也右ノ爵録百
金ヲオシミテ間ヲ用ヒサルユヘニ款
ノ情ヲ明白ニ知ラテラサレ也情軍情
也勝ヘキワケ負ヘキワケノ内ニカク
シテ外ヘミヘ又知ラサシテ軍情ト云
軍實ト云テ實ニ年ニ取タル如ク夕シ
カナル知ラ云也物ヲオシミテ間ヲ用
ヒス数年對陣ノ其アヒ夕前ニコレア
ル通リ莫大ノ費國中ノ民ノ疲苦シ△

難夷ヲ考ヘサルハ不仁ノ至也ト云丁

一 取知之計策ノ更

款ノ諸將ノ中ニテ邪夷ニテ利欲深キ
者ヘ返リ忠ヲ示サハ領知イカホトツ
カハスヘシト堅キ誓紙トト調密ニ遣
シ心ヲ取カタムケテ万事ヲ内通ヲ致
サセル類也

一 引出ニ帰服大扱ヒノ事

一 アウカヒヲ入テ和談ヲシカケ此方へ
帰服スル如ク致シサテ和義調フ上ニ
テ其城ハ取合ノ地ナレハ替地ニ何レ
ヲ遣スヘシト云テ其城ヲ引出ス如
クスルヲ云其上ニテハイカヤラヒナ
ルモ也スヘテ城攻ハ敵ヲ城ヨリヲ
一 取ルキ出スルハ勝利也

一 外ヨリ内へ降参之身

二 心ナキ忠義信ノ勇士ヲイツハリテ

城中へ降参サセ是ヲ以テ城ノ虚实ヲ

ハカリ其情ヲ知り或ハ火ノ手ヲ合セ

或ハ城戸ヲ開テ我ヲ導シソ又ハ敵ノ

主將へ害ヲ説テ怠タラシメ或ハ其城

ヲ開カシムル也

一 計策可用取分之事

城中堅固ニテ盛シノ取ノ用ヒ難シ然

レハ籠城久シク退屈ニ勞レオト口へ

タル取ヲ考テ計策ヲナスヘシ是可用

ノ取十リ

○密ニ人数ヲ集メ隠着到之度

夕トハハムホン人十トアリテ是ヲ計

付シカ為カ何ソユヘアリテ款ニ知也又

ヤリニ穩便ニ人ヲ集メ人数ノ多少ヲ

計リ知メ法也

一 俄ノ普請ニ度ヲ寄ル事

急ニ普請ヲスル丁下レハ夕トノ台十

六丈ヨリ六十丈ヲ限リ或ハ百石何人

ト石口ヨリ杯ニメ呼集ル也然レハ外ニ

疑ハキ也

一 竹木石或ハ食物或ハ引出物之事

普請ニヨセテ竹木ヲ出サセ石ヲ出サ

セ或ハ運ハセテ是ヲ以積人数ノ多少

ヲ計リ或ハ家中何レモ定メ通り人数

ヲカハヘ居ルカヲ知ヘキ也或ハ食物

ヲアタヘ又金銀布帛ヲ引出物ニ出シ

計也是ヲ隐藏着到ト云也

○ 間者用様之事

其人ニ忠ト不忠トアリ其才ニ用ニ立
 ト立ヌトアリサテ其詞ニ虚実アリテ
 其云フハカラレス故ニ間ヲ用ルノ軍
 ノ大要也其用ヒヤウヲ云也
 一 其言行ヲ能察シ実不実ヲハカリ智慧才
 覚ヲ可知変
 是間ニ用ル人柄ノ下ヲ云其者ノ詞ト
 身ニ行フ所作トヲ能ク察シ考テ真实

一 倫ニテニ心ナキ者力又偽リ力サリテ輕
 薄ナル心底ノ者力ト云フハカリミ
 ル也不実ナルモノハ言行ノ口ハ又モ
 ノ也智慧ハ内ニアルル才覺ハ外口サ
 ニアラハルル知ニテ変ヲサハクニ能
 道理ニ叶フテ内心智謀深ク機ヲミテ
 変ニ應スル器量アルカラ知リ用ユヘ
 一 其本末ヲハカリ其美不美ヲ可知変

本ハ其者ノ出生ノ身元ヲ云末ハ立身
ノ今勅ル知ラ云タトヘ又カンニテ働
アルモノモ其町人百姓ヨリ出タル者
ハ其理ヲ不知ノ利欲ノ為ニ迷ハサレ
テハ主君ヲモカヘリ見サルモノ也其
士タルモノハ宰人ニテ民間ニ居テモ
其心タカハサルモノ也此本末ヲ考テ
其人ヲ知テ用ヘキ也
一 間ヨリ親シキハ十ク恩賞間ヨリ厚ハ十

ク事間ヨリ密ナルハ十キ事
間ヨリ親ハ十クハ士卒何レモ十ツケ
親シクスルヲ十レ氏中ニモ取分テ親
ムト間ニスキタルモノハ十キ也只一
人款中へ性来ノ真実ヲ尽シ忠美ヲハ
ケムヤウニスルヲ十レハ随分ト子ニ
コロニ親ムト肝要也恩賞間ヨリ厚ハ
十シト忠美ヲ勵ムヤウニスルヲ十レ
ハ随分ト氣ヲ付與ルト間ニスキタル

厚ハ十キ也重ク賞セサレハ款ノ金銀
ニメテ、及間ニ十ル丁アリ其上軍ノ
勝敗間ニヨル丁十レハ恩賞ヲ加ユル
丁間ヲ第一トスル丁也事間ヨリ密十
ルハ十キ丁軍万事隠密ニ致ス丁間ニ
コシタル者ハ十シト也間ノ丁少シニ
テモ外へ池ル成ハ其計成サル丁十レ
ハ間ヲ用ル丁至テ隠密ニスル丁干要
十リ

一 聖智ニアラサレハ間ヲ用ル能ハサレ

事

聖ハ明ニ又ケ通テ曇リノ十キ丁也智
ハ智恵ニテ深ク思ヒ遠ク慮リアル丁
也如此人ニアラサレハ能間ヲ用ル丁
ハ十ラス款ノ為ニ欺レテ及間ニアフ
丁アルユヘニ間ヲ全ク用ル丁ハ明智
ニアラサレハ十ラ又丁也
一 仁義ニアラサレハ間ヲ使フ丁能ハサレ

事

仁徳ヲ以恩ヲ施シ
ハケニシ人ノ心ヲ結フニアラサレハ
間ハ使ハレヌト也シカラサレハ其者
精カラ尽シ廊ム薄キユヘ其功ヲ十
ス丁十ラサレハ仁恩ニ感シ
シ身命ヲ輕シ主人用ニ立如クスル可
要十リ

一 微妙ニアラサレハ間ノ実ヲ得ルヲ能ハ

カハ事

微妙ハカスカタヘナル
カニノ不測至極
欺カレテ反間ト成或ハ間其
スノ自分ヨリノ偽ヲ云フトモ
ニハ將タル人ハ右ノ微妙ナル深クコ
ニヤカナル如ノ末ノ末迄ユキ渡リテ
明察スル智慧ニアラサレハ其
得ルヲハ十ラサルモノ也

○ 忍之者ヲ撰フ事

忍ハ夫瓦子ノ類ニシハリ或ハ出家
山伏町人醫者藝者十トニ出テ事ヲ
ハカルヲ云是ニ用ル人柄ヲ撰フヲ
云ナリ

一 外ヲ口カニメ内辨才智惠ル者ノ事

見カケハクトニ取劣リテ内心ノ榮

明ナル辨舌スクル者ヲ用ユヘシ其

容貞賢クミユル者ハ諸人氣ヲ付疑ヲ

一 十スモ人ユヘ其可成就スルヲ難シ

一 力量早業カンセウアリテ無病ナル生付

之良

タトヘハ款ニ見アヤメラレ捕ヘラレ

テモ折倒レテ深谷ヘ落テ身ヲ遁レ或

岩石ヲモ暫收ニカケユル類ノ者ノ

了也然レハ常持病十トアリテハイツ

病起ルヘキモシリ難シ故ニ無病ナル

人ヲ用ル了第一也

一 勇アリテ心大キナル生レ付之衰

如此人ハ物ニ屈スル丁十キユヘイカ

ホト亮キ揚ル或ハ関ル十ト往来スル

トテモ十二トモ思ハヌユヘ見ル人見

咎ノアマシメサルモノ也故ニ如此人

ヲエラヒ用ユヘシ心小キ者ハ物ユト

アマフミ疑ヒアリテ大事ヲ得トケサ

ルモノ也

一 所之案内国々之風俗郷談ヲ能スル事

款国ノ險易廣狹本道暇道ノ行程国々

ノ風俗衣紋ツキ髪ノ結ヤウ物ノ取美

等能シリ郷談其知々ノ詞ヲ能覚ヘタ

ル者ヲ用ル丁也

○ 恐武功之事

一 内之油断ヲ考知事付揚ル之考ノ事

城中陣中或ハ固屋スヘテ款中へ恐ヒ

入ニ其守リノ全キ片ハ变成難シ故ニ

内ノ弓断ヲ考知丁肝要也或ハ大酒ノ

アカリ或ハ風雨ノ烈ニキ吹ノ類内ノ
用心怠ルモノ也場外ノ考ハ夕トハハ
暑中ハ北ノ方捻テ涼キ外ニ人集リ寒
中ニハ東南ノ方ア夕、カナル外ニ人
集ル類ト如此考ヲ内ノ虚ヲ計リ知
ヘキ也

一 戸入ノ習之夏
戸ヲアクルニアヤフミテソロト
ラシミアケニスレハ内ノモノ聞アヤ

サラリト何心ナクアクルカヨキナリ
是習ト也

一 洞之火付竹之事
洞ノ火ハ生火入付竹ハ合付竹也款ノ
固屋ヲヤキ或ハ相圖ノ火ナトニ用ユ
捻テ入用アルモノナレハ是ヲ所持ス
ヘシ

一 相圖ノ火相圖ノ詞之事

相圖ノ火ハ夜中兼テ約束ヲナシ置テ
火ヲ以事ヲ通スル也タトヘハ二三
モユクニ先一人内ニ入テ様子ヲ伺
首尾能ハ火ヲ揚ヘシ其敗残ル者入
シト紛シ置カテ火起レハ残ル者入火
ノ年ミヘ子ハ不入此意ナリ相圖ノ詞
ハ忍ノ人数ハ万事言葉ヲカヘテ紛シ
置テ人中ニテ変ヲ云談シテモ其訣外
人同取リノナラヌヤウニスル云也

一 俄ニ取ヲ替ル変

タトヘハ羽ヲリナト表裏ヲ白黒ニメ
関知ナトスクルカ捻テ人ノ見アヤシ
△ヘキト思フ知ヲ通りテハアトヨリ
人追来ルナモアルナレハ其知ヲ過
ルト右ノハヲリヲ裏ヲ表ニ返メ着ス
ル心得也兼テケ様ノナニ心ヲ可付也
一 扉ヲ乗石垣土居ヲ越シ川堰ヲ越ル道具
之事

屏石垣ヲコシ或ハ土居スヘテ高キ丸
ヲコス道具ハ細引ノ先ヘ釣ヲ付竹ヲ
六七寸ニ切テ教十右ノ細ニ通シ置常
ハ夕、ミテ持入用ノ氏石ノ竹ク夕ヲ
スユキ引ツムルト細リント竿ヲ立夕
ル如ク十ル也是ヲ以テ釣ヲイツレニ
テモ高キ丸ニ引カケテ越ス也河ヲコ
ス道具ハ浮杏也瓢タニ十トノ類輕ク
ハ夕、ミテ持入用ノ氏石ノ竹ク夕ヲ
スユキ引ツムルト細リント竿ヲ立夕
ル如ク十ル也是ヲ以テ釣ヲイツレニ
テモ高キ丸ニ引カケテ越ス也河ヲコ
ス道具ハ浮杏也瓢タニ十トノ類輕ク

一 諸道具ヲ所持イタス事

恐ノ氏入用人道具ヲ何レモ可持其器
ハ恐ノ家ヨリ受ヘシ恐ノ家ハ江州甲
賀ノ人最善之皆有家秘而為相傳ト云
一 隠ル、一ヲ隠シアラハル、一ヲアヲハ
ス事

恐ハ万事ヲ隠密ニスルモノナレ氏余
リ隠セハ諸人アマシノ氣ヲ付テ所要
ノ丁却テ泄ル、一アルモノ也然レハ

大夏ノ下ハ勿論スイフン隠密ニシテ
サテ人ノ聞テモ能クハアヲハシテ隠
スヘカラスサスレハ人ノ疑ナキユヘ
隠ス下イヨク密ニナリテ外ヘ泄サ
ルモノ也

一心ノ付様之事
是ハ何ニテモ我仕方ヲ人見トカメテ
疑ヲナスカ又ナサレハ力心ヲ付テト
カク見アヤシク又ヤクニ身持ヲスヘ

○計策間者恐不被入心得之度

一 関ヲ堅クスル度付相圖ノ火相圖ノ旌刻
符合印相詞ヲ紉スル度

我領知ノ境往還筋へ幾知モ関ヲスヘ
テ往來ノ人ヲ改ムヘシトナリサテ兼
テ紉ヲナシ置テ突如ヲ疑キモノ通ル
片ハ次ノ番如ヘ只今如此者通りタル
ト云フヲ夜ハ火登ルノ口ニ或ハ兩圍

一 へカ、リ十ラハ旌杯ヲ以テ相知セ
味方ノ為ニ刻符合印相詞ヲ紛ニ置テ
款味方ヲ改ムヘシワリフ合印相詞ノ
一ハ制法ノ卷ニアリ
一 高買ノ旅人勸進修行者ヲ改ル事
是等ノ類ヒニ歎ヲ来ルモノナレ
一 氣ヲ付テ実ノ商人法師カ偽リ者作
此リモノカヲヨク改ムヘキ也
一 味方ノ内ニ款方ヘ縁者親類アラハ可申

上事

一 款方ヘ縁アル者公其口ケヲ申上ヘキ
也上ヨリモ早速申出ル如ク沙汰ヲス
ヘシ款ヨリ其縁ニ夕ヨリ計策ヲナシ
又彼ヘ味方ノ者内通トスルヲアル
モノナレハ能ク心ヲ付ヘシ
一 款方ヨリ内通ノ差申来ラハ速ニ可申上
事

一 内縁ニヨリテ款ヨリ内通スルマウニ

十ト、申越力又昏状十ト来ル氏ハ早
速上へ申出へキ也ソレニ因テ此方ノ
計策ヲ十又午段ニ十ルモノ也私トメ
返事ヲ十シ来状ヲ用十トスルハ元
ヨリ制禁スル也

一 款ノ無事ヲ作ル実不実ヲ知事
款方ヨリ無妄和談ヲセニト云大将ノ
親族又ハ股肱ノ良臣十トヲ人質ニ出
シテ云越ハコシ実也人質十シニ起請

文十トヲ書へシ十ト云不実也

一 和ヲ乞ニ実十ルカ如シトイヘ凡計策ニ
ノセラレサル事

款和談ヲ乞ニ実理尤ノ云分ニ因ヘテ
モ其真意邪美ニテ我ニ油断サセ其間
ニ款備ヲ全フスルヲアルモノ也是ニ
ノセラレサル如クスヘシ

一 返間ヲ防キ同返間ヲ可知事
防クハ返間ニアハ又如クスル也是我

力間ニ忠美信深キ無二ノ勇士ヲ用ユ
ヘシ返間ヲ知ルハ我間利欲ニヒカレ
或ハ款ニハカラレテ及間ト成テ帰ル
了了リ是ヲ知ル了所要也是其ヲ貪鑿
シテ見ルヘシタトハ間ノ云如利方
ノ利ノ如ク同ヘテモ根本款ノ仕方ニ
不連続ナレハ是及間也能ク可心付也
計策文シタ、ノ様之事
味方ノ者ヘ事ヲ通スルニ有体ニ調ル

成万一其文款ノ年ニ入成ハ其変了ラ
谷ル、故兼テ約ヲナシ置テ外人ニテ
其変不分明ヤウニ詞ヲカヘテシタ、
一、ハル是ヲ計策文ト云也其各様ヲ云
一七佛之事、イロハニ口傳了ル変也イロ
ハニ限ラス此心得肝要之變
七佛トハ毗波尸佛尸棄佛毗舍浮佛拘
留孫佛拘那含牟尼佛加棄佛釈迦牟尼
佛是ヲ過去七佛ト云此七佛ヲイロハ

七行ニ配ノ夕トヘハ夜討ト云下ヲカ
クニハ毗舎浮仏ノ一狗留孫佛ノ三尸
兼仏ノ一ト認ル意也 是ハイロハヲ以
テ調ルニハ限ラス何ニテモ此道理ヲ
用ユヘシ是要也

一 入字不入字同傍字之事

昏簡ヲトノヘルニ夕トヘハ互ノ安
否ヲ問其中ニ或ハ明日加勢ヲ可被差
越ト云ヤル是入字ニテ前後ノ文言ハ

不入字也此中ノ入字ヲ或ハ鳥ヲ差コ

一 也ト昏片ハ加勢ト可心得トト、兼テ
約ヲトシ置カヨキ也傍字ハ右ノ鳥ト
字ヲ一字昏テハ自然敵方ニ見タル氏
ハ氣ヲ付テ疑ヲ起スユヘ其字ニ熟字
ヲ加ヘテ夕トヘハ何鳥ト云如ク鳥ノ
各ヲ昏加ル是ヲ傍字ト云也畢竟入字
一ハ不入字傍字ヲ昏添テ常体音同ノ
一 状ノ如ク認ヘシト云下也

一 一字ノ習之事 力十二 紮束アリ

前ノ二条ノ如キハ 変繁多ニ 又急用ノ

片ニトヒアルニ 二カ十文字ニ 紮束

ヲ十三 置テ夕トヘハイノ 字ハ兵糧ノ

丁千ノ 字ハ夜折ノ 丁ト云 如ク 訖ニ 置

テ只一 字ヲ以テ 変ヲ弁スルヤウニス

ル丁也 是ヲ一 字ノ習ト云也

一 陰唇三發之變

唇狀ヲ横ニ 三段ニ切テ 三使ニ持セ 道

一 分テ遣ニ 先方ニテ 三ヲ合セテ 其變

ヲ弁スルヤウニスルヲ云也 夕トヘ 敵

ニ一人捕ヘラレテモ 其變分明ニシテ

レサルモノ也

一 陰符之變

竹木或ハ紙十トノ類ヲ以寸法ヲ定テ

是ヲ遣ソ 万變ヲ密ニ通スル也 夕トヘ

ハ其長五寸アルハ 糧ヲ請フ符六寸ア

ルハ加勢七寸アルハ 勝利十ト云マ

ウニ紛ヲ十シ変ヲ弁スルヲ云

一 白字黒字ノ習之変

白字ハ白布十トヘタシカ子ヲ以テ認

ツカハス是ハ火ヲ以テアフリテ文ヲ

油ヲ以テ昏遣ハス是ハ灰ノ類ヲフリ

カケテミル也大変ノ状ハ如此ノ通ス

ヘシ

ヘシ

一 相圖約束ヲ以テスル取ハ文字ヲ以テ変

ヲ通スル計ニ限ラサル事

前ノ陰符十トノ道理也何ヲ以テモ通

達成モノ十トハ何ニヨラズ通達ノ成

道理ヲ以テスヘキ也

大白陰経曰夫三軍之重者莫重行人三軍

之密者莫密行人行人謀未洩而泄以告之

者死謀洩之日削其藁焚其草金其口木其

舌無使内謀之泄若隼鳥之入重林無其跡

如遊魚之趣深潭無其跡離朱俛其首不見

其欣師曠頤耳不聆其音微乎微乎覺與纖
塵俱飛其飲食醉酒勇力輕合之將見行人
之事乎

大白隱經ハ古者ニテ今世ニ傳ラヌ武
備志ノ中ニミヘタリ此段間ハ至極密
ニスヘキヲ云也夫三軍之重者莫行
人ト捺テ三軍ノ内ニテ重キ大切ナル
モノ行人ニ過タル者ハ十キ也行人ハ
間ノ下也誠ニ軍ノ勝負ハ間ノ上ニア

ル下ナレハ也三軍ノ密者莫密行ハ下
軍中一切ノ下間ヨリ隱密ナルモノ別
ニ其下ニ將ノ口ヨリ出テ間ノ外ニ入
間ノ外ヨリ出テ將ノ耳ニ入り出テ外
人聞テ下得ス是至極ノ隱密也行人之
謀未洩而泄以告之者死ト間敵国ヨリ
帰テ下ニ夕其変ヲ大將ヘイハナル以
前ニ以キヨリ聞ユル下也間ニ行タル
モノ下間ヨリ聞タルモノ皆死罪ニ

行ノ也告之者トハ間ニイヒキカサレ
タル人ヲ云也右ノ通至テ隱密ニスル
ト工ヘ泄セル間ニ聞タル者モ死罪也
謀殺之日削其稟焚其草金其口木其舌
ト稟モ草モ其変ノ手扱也下力キノ丁
也其謀ヲ乃大將ヘ注進スルト其日即
時其手扱ヲ削リスヲ焚捨テ少モ残ニ
置ス我口各ヲ金ヤ木ノ如クニイタヒ
少ニモ勤サスイカヤウノ事モ間ノ

趣ヲハ且外ヘ出サス用無使内謀之泄
ト一切外ヘ泄ニキカセ不隱密ニスル
也是肝要ノ事也若集鳥之人童林無其
跡如遊魚之趣深潭無跡ト石ノ如クハ
間ノ謀ヲ人ノ知不入ナラヌヤウキス
ル丁也夕トヘテイ本トハヤフオノ空
ヲ飛テ幾重モシケル立ル林中ト入
テ何レヘ通り入タルト云其跡カ夕午
十ク又水上ニ遊魚ノ深キ淵ノ底ニシ

ツミテ其カケ取千人シレホルヤウニ
有之也離朱俛其首不見其取師曠傾耳
不聞其音ト離朱ハ古ノ至極目ノ明カ
ナル人師曠ハ至テ耳トキ人ノ人ナリ
如此トトテ行人ノ行ヒハミルトモ
聞キテ其真ラズ也微妙トト響与織塵
俱飛ト微妙トト同淵ナルヲ本合ル詞
ニテ誠ニ微妙至極ナルトカト僅ノス
キカラ道ノ人トト人入ト同ト如クニテ

右ノ通イカナル目ノ明カナル者モ耳
トキ者ニテモ見聞トハナラヌ也ニシ
テヤ飲食醉酒トタ、吞食ヲノミヌト
ニ酒ニ酔テ血氣ニハヤル軽々シキ將
ハ見行人ノ事乎ト一向ニ行人ノ所作
ヲハミルトハナラズ也同ヲハ如此
用ルト肝要也

Handwritten text in vertical columns on the right page of an open book. The text is written in a cursive style and is significantly faded, making it difficult to read. The columns are arranged from right to left, starting with a single column on the far right and ending with a single column on the far left of the page. The characters are small and closely spaced within each column.





